



行く年をスピード違反で逮捕せよ

花岡直樹

多忙だからこそできた句である。暇人には詠めん。仕事が終わってないのに新年が来てしまう。逮捕までしなくても職質で引き留めてもらわんと。



街を踏むゴジラの心地霜柱

峰崎成規

人間のDNAには様々な記憶が受け継がれている。遠い昔、恐竜のいた時代の情報も残っているはず。「ゴジラの心地」もまんざら虚構ではないかも。



散りたがる咲きたがり屋の山茶花は

吉川正紀子

山茶花は椿と違って花びらがバラバラに散る。咲いている時も艶やかだが散ってから周りを華やかにする。擬人化を上手く使った面白い句。



熱燭の冷める頃には泣き上戸

山田真佐子

俳句をひとつのドラマと考えるならば熱燭は名脇役。お前のせいじゃないけどなんでこんなに泣けてくるのかしら。ねえ教えてちょうだい、酒よ酒。



デパートに入口出口できて冬

山本 賜

コロナの世は、とにかく人の接触を減らさなきゃならん。一方通行が推奨され、入口出口を指定する店も増えた。寒々しいことだが慣らされる。



自動ドア枯葉に先を越されけり

久松久子

自動ドアが開くのを待っていたかのように枯れ葉がひらりと先に入ってしまった。さっと動いたつもりだが、身ごなしの軽さはとてもかなわんね。